
いのち

山田 ライフル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いのち

【Nコード】
N3354E

【作者名】
山田 ライフル

【あらすじ】
お爺さんとタンポポさんは全然違うのにとっても仲良し。そんな不思議なお話です

病に倒れ、余命いくばくも無いお爺さんが、ある時散歩をしていると、汚い用水路の中に一輪のきれいなタンポポさんを見つけました。

「綺麗な花なのに、ひどい所に咲いてしまったな……」
お爺さんはタンポポさんを見て、可哀想と言いました。

そんなお爺さんを見て、タンポポさんが不思議そうに語りました。
「ここはひどくないよ？」
養分もたつぷりあるし日差しもいいんだ。
こんなにもいい場所はほかには無いよ？」

お爺さんは言いました。

「でも君、泥だらけじゃないか。

私をもっと良い所に移してあげようか？」

タンポポさんはビックリして言いました。

「やめてよ。人間達のいい所って言えば、

虫さんもない部屋の中で、夏でも寒くて朝か夜か分からない所だ。
窮屈で枯れちゃうよ！

それよりお爺さんこそ、ここで暮らそうよ？
動かなくても栄養たつぷり。日差しもいいよ？」

お爺さんは勘弁してくれと笑いました。

お花さんもそうでしょう？と笑いました。

やがて月日が過ぎ

タンポポさんは大きな綿毛のついた子供たちを
青空に飛ばす時がやってきたのでした。

「ここもいい所だったが、お前たちは
もつといい所に飛んでいくんだよ。」

綿毛のついた子供たちは、ハイと言うと
風に乗って高く高く飛んでいきました。

不器用な子供が最後にふらふら飛び立つのを見送ると、
タンポポさんはそのまま笑って枯れていきました。

その頃お爺さんも、病院で家族に囲まれながら
最後の時を過ごしていました。

「ワシはいい人生を送ったよ。願わくば
お前達もワシみたいに、いやワシ以上に
いい人生を送って欲しいなあ。」

お爺さんは家族に見取られながら
笑って死んでいきました。

お爺さんとタンポポさんをあの世から見ていた神様は
全然違う者同士なのに、どうして最後だけは二人とも
幸せそうに死んだのか、不思議で仕方ありません。

「早うここに来んかいな？」

杖をぶんぶん振り回して、雲を振り払いながら
その答えがここに来るのをドキドキしながら
待っているのです。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3354e/>

いのち

2010年10月28日08時04分発行